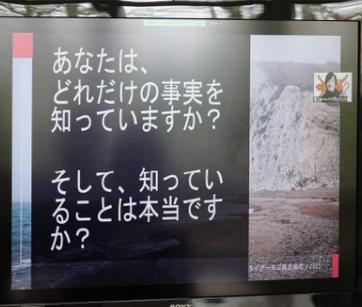
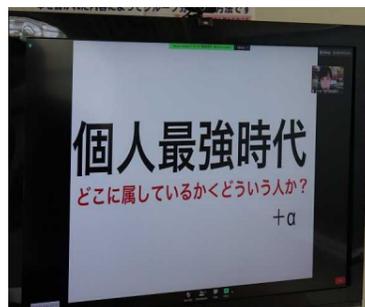
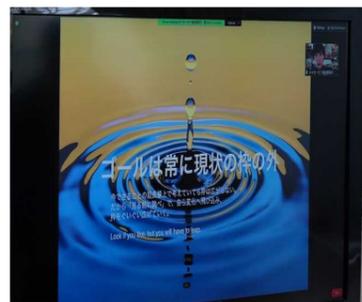
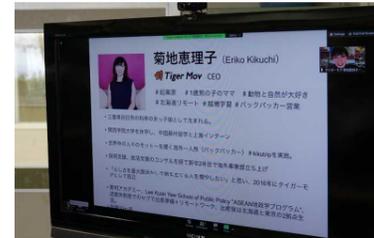


北海道羅臼高等学校 通信 No4 R3.5.20



水産教室 ZOOM 講演

- 日時 令和3年5月17日(月) 3・4校時
- 対象 3年選択科目「海洋生物(水産教室)」受講者8名
- 事業 SDGsプログラム
- 内容 世界を相手に活躍する若手起業家と ZOOM を使って繋がる。
生まれ育った知床羅臼を起点に、自分はどうの価値観を持って行動し、世界に情報を発信していくのか思考する。加えて、ポストコロナに向けて創造的な生き方を模索する。
- 講師 菊地 恵理子 タイガーモブ株式会社(Tiger Mov, Inc.)代表取締役
Kandai Nakamura タイガーモブ株式会社(Tiger Mov, Inc.)副社長
- 連携等 羅臼町教育委員会 中田 晴(ふるさと教育担当)、坂本勇介(社会教育係長)、佐藤大誠、
- 担当 中野拓也(教諭)



○羅臼町幼小中高一貫教育(教科2021年度シラバス)

科目名	海洋生物(知床学・水産教室)	単位数	2	学年	3	履修形態	選択
使用教科書	知床学(副読本・中高生版)	使用副教材	オホーツクのさかな、教科通信等				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 羅臼の海洋環境に関心を持ち、海洋生物について総合的に学ぶ。 根室海峡に生息する生物の資源としての有用性や持続可能な利用のあり方について理解する。 知床半島の魅力と独自性を自分の言葉で語り、発信できるようにする。 						
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 野外活動 <ul style="list-style-type: none"> 年間16回の特設授業として「水産教室」を予定している。これを踏まえて、羅臼町の水産業界の現状を体験的に理解する。 町の「水産教室」として実施する施設見学、実習、講義などの特設授業と組み合わせ、1年間をとおして海について総合的に学習する。 校内での授業 <ul style="list-style-type: none"> 根室海峡や北方領土周辺海域の地理的な特徴や生物相全般への理解を深め、この海域の環境保全のあるべき姿について考える。 時間割を柔軟に対応させることで、午前中すべてを使った実習、終日にわたる実習、さらに宿泊をともなう実習などを実施する。 技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> ロープワーク等の実践的技術、スクーバダイビングのライセンス取得をする。 潜水士(年4回の国家試験)へ挑戦する。(希望者) 						
資格等	<ol style="list-style-type: none"> 取得できる資格 <ul style="list-style-type: none"> スクーバダイビングのライセンス(全員) 潜水士(希望者) 年4回(恵庭3、釧路1)の国家試験を受験し合格する必要がある。 費用等 <ul style="list-style-type: none"> スクーバダイビングのライセンスは、全額羅臼町より支援される。 潜水士は、事前講習と受験料が半額羅臼町より支援され、受験にかかる費用は各自負担とする。 						
支援等	水産教室で扱う内容等については、高校・漁協・町教委の担当者が協議しながら企画運営をおこなう。						
評価の方法	次の5項目を総合的に判断しておこなう。 ①課題・レポートの提出状況とその内容、②議論や発表活動での役割等の活動状況、③フィールドでの活動状況(安全管理、的確な判断、効果的な情報伝達)、④課題の達成プロセスごとのパフォーマンス、⑤学習状況の観察(考査含)						
評価の観点	観点	関心・意欲・態度	判断・表現(科学的な)	技能(実習等)	知識・理解		
および 評価基準の ルーブリック	評価対象	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する姿勢 課題等の提出 技術の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 課題等の内容 研修等での情報共有 実習等での行動 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠に基づいた行動 正しい手順の遵守 課題達成結果、考察 	<ul style="list-style-type: none"> 考査の結果 課題等の内容 発表での応答等 		
	S	授業から論理的に自然を考えることができ、自ら進んで学びを深めることができる。	科学的な見方や考え方を活用しながら論理的に考察し、人にわかりやすく表現することができる。	正しい理解に基づいた正確な技術を身に付けておこなうことができる。	基本的な原理・法則および知識に加え、発展的な概念や法則も正しく理解している。		
	A	論理的に自然を考えることに強い関心を持ち、意欲的に授業に参加することができる。	科学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考察し、自らの考えを表現できる。	正確な技術を身に付けておこなうことができる。	基本的な原理・法則および知識などを正しく理解している。		
	B	与えられた課題等に取り組む中で論理的な思考に関心を持つことができる。	科学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考察することができる。	正しい技術の習得の必要性を理解し、身に付ける努力をしている。	基本的な原理・法則および知識などの概要は理解している。		
	C	自然を論理的に思考する重要性が認識できず、課題等の取り組みが甘い。	自らの考えを自然科学的な見方や考え方をを用いて論理的にまとめることができない。	技術の理解が弱く、正確性に欠けるところがある。	基本的な原理・法則および知識などを理解していない。		
成績不振要注意者の基準	次の3項目のうち、1つでも該当する者 ○出席が常でない、○未提出課題がある、○評価の総計が30点未満						